



## パワー浜松ロータリークラブ週報 2015年3月17日号 本年度テーマ: Rotary Mind、Rotary Wayを確認しよう～ 心で感じて・考えて・活動しよう～

パワー浜松ロータリークラブ (2014-15年度会長: 小林昭次)  
〒430-7733 浜松市中区板屋町111-2 オークラクトシティホテル浜松 4307号室  
Tel: 053-452-0800 Email: info@power-hamamatsurc.jp  
http://www.power-hamamatsurc.jp  
創立: 2002年10月22日 認証伝達式: 2003年4月29日 スポンサークラブ: 浜松中RC



### 第573回例会 3月17日 AM7:30～8:30

オークラクトシティホテル浜松3Fチェルシーの間

- 司会: 西尾文克、鈴木一広 ●点鐘: 岩本英樹
- ゲスト: 袴田秀子様、レナ・シュナブル様 ●ビジター: 浜松南RC小野真人様
- 議事: 社会奉仕委員会「48年目の奇跡 冤罪事件にかけた生涯」

<出席報告> 本日出席率72名 88.9% 前々回出席率72, 83%



### ■会長挨拶

岩本英樹副会長: 皆さんおはようございます。小林会長の代理でご挨拶をさせていただきます。

先日、駅前の浜松プレスタワーの30周年記念があり出席させていただきました。その際にノーベル物理学賞を受賞した天野浩先生のお話を聞く機会がございました。とても感動しましたのでご紹介させていただきます。

天野先生は全面に人柄があふれる方で、こんな方が世界で選ばれる方なのだとは非常に身近に感じました。高校までは勉強する意味が分からず、ただ数学だけが好きだったというお話がありました。大学進学後に教授と話をしている時、工学部の「工(こう)」という字は、上の「一」が人、下の「一」が人を表し、それを結ぶのが「工学」だ、と。これこそまさに自分が世の中に役に立つ為にやらなければいけない事だということで、はじめて勉強の意味がわかり、一生懸命勉強されたそうです。

天野教授は、「なぜこの世の中に存在するのか」、「なぜLEDを開発したのか」という「なぜこうあるのだ」というお話には非常に感動を受けました。私が勤める会社も「なぜこの世の中に存在するのか」という意味をよく理解して、これから一生懸命仕事に取り組みようと改めて思いました。今日はこれでご挨拶とさせていただきます。

### ■幹事報告

末広幹事: レターボックスに、袴田様のプロフィールと募金のお願いのご案内が入っています。

### ■スマイル

小林昭次、岩本英樹、末広さくら: 袴田秀子様、本日は早朝よりありがとうございました。長年大変な思いをされ、巖さんを支えてこられた秀子さんのご苦勞が報われて、再審開始決定と釈放に至った事をお祝いすると共に、完全無罪に向けてこれからも頑張っていられることを応援しています。

社会奉仕委員会 河村公隆、安間孝明: 袴田秀子様、本日はお忙しい中ありがとうございました。貴重なお話を聞く事が出来ました。これからもお体を大切にがんばって下さい。

高貝亮: 袴田秀子さん、本日は卓話をいただきありがとうございました。安間さん、奥山さんをはじめ、袴田巖さんを支えて頂いている多くの会員のみなさんありがとうございます。

安間孝明: 袴田秀子さん、シュナブルさん、本日はありがとうございました。私たちトータルケアセンターは、この冤罪事件に数年前に関わりました。法人設立10年を記念にして、他にも被災地支援のイベントをカレーガーデンレースで行います。ご協力よろしくお願い致します。

小澤邦比呂: 一昨日15日(日)グランドホテル浜松に於いて第2620地区米山記念奨学生期間終了式が開催され、当クラブより青山素久地区委員・中野敬司カウンセラー・米山奨学生の暢婉君さん・私小澤が出席させていただきました。暢婉君さんにつきましては一年間大変お世話になりました。今後共米山奨学生のご支援を宜しくお願い致します。

**福地三則、堀内善弘:** お手もとにある「森岡の家」浜北の集いのご案内用紙をご覧ください。昨年も福地より告知致しましたが、現在その存続について行政とのやりとりが最終段階にきています。浜松の産業の基礎をつくった家、ゆかりの財産です。地元浜北の方も動いております。どうかご関心を寄せられ応援して頂きたく、お知らせ、お願い申し上げます。

**金山土洲:** 本日DMを配らせて頂きました4月3日から8日まで今日と清水寺すぐ下の「朝日陶庵<sup>ちようあん</sup>」にて個展を開催しています。この間、桜咲く清水寺夜のライトアップによる特別拝観中です。京都にお出掛けの節は是非お立ち寄りください。

**奥山恵理子:** 3月10日に聖隷クリストファー大学大学院後期博士課程を修了し、学位を頂きました。7年前、「認知症ケア」を実践する立場として、科学的に検証をした手法を社会に提供したいと考えての進学でした。「リハビリテーション科学」という新しい分野での学び、研究をさせていただきました。多くの先生方からのご指導と、職場のスタッフ、パワー浜松RCの友人の皆様にはげまされながらの生活でした。修士論文、博士論文、作成時期にはロータリー活動もお休みがちとなりご迷惑をおかけ致しました。今後は「社会に研究の成果をお返しできるよう」がんばりたいと思います。末長くよろしく願いたします。



**「袴田事件」** 1966年6月、静岡県清水市(現静岡市)で、味噌製造会社の専務宅から出火、メッタ刺しにされた4人の遺体が見つかった。この事件で犯人とされ死刑が確定した元プロボクサー・袴田巖さん(78歳)。長きにわたって獄窓にあったが、2014年3月、再審開始が決定し保釈された。実に48年ぶりの自由の身であった。巖さんを支え、ともに無実を訴え続けてきた姉・秀子さん(81歳)に我がクラブに来ていただき、卓話をしていただいた。

**袴田秀子様:** 私は浜松市に住んでいます。長い闘いでした。でも、決して諦めることはありませんでした。私はこの日が必ず来ることを信じ、疑っていませんでしたから。

昨年3月27日、静岡地裁で巖の再審開始の決定がようやくされました。81年に再審請求をし、地裁と東京高裁、最高裁で棄却。2008年には第2次再審請求をし、それがようやく受け入れられたのです。面会を終え、小さな部屋で書類を書いていると再び巖が姿を見せ、もうびっくり。まさかその日に保釈されるとは思っていなかったのが驚くと同時に、何とも言えないうれしさが込み上げてきました。

拘置所を出た日はホテルに泊まり、その後、東京で2カ月、浜松で1カ月入院生活を余儀なくされていました。拘置所に長いいたため拘禁症と軽い糖尿病、そして認知症の疑いがあったためです。でも幸いなことに、思ったよりひどくはなくホッとしています。

自宅に来て外出したのは、散髪に行くなどの数回回きり、あとは家にこもったままです。長期間の拘禁の影響が残り、まだおかしい言動があります。でも、これは仕方ありません。48年間も囚われの身だったのですから。そんなふうになったのは、死刑が確定してからでした。それまでは面会に行くのととも元気で、こちらが励まされるくらいだったんです。

いま巖は心を閉ざしながらも必死で生きていると思います。早く再審がされることを祈っています。皆様のご支援に感謝いたします。



## ■ 議事

### 社会奉仕委員会「48年目の奇跡 冤罪事件にかけた生涯」

**安間会員:** 弟さんが冤罪をかけられて48年間拘置されていた、甚だしく正義に反する事件でしたが、まだ判決が確定していません。秀子様は弟さんの無実を信じ続けられて応援されてきました。